

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	ひだ清見イベント開催事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線
種別	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事
種別	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
種別	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
種別	目	1	観光振興費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	対象者数	2,531 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域内で組織する各種団体が実行委員となり、地域主導のイベントにより地域を活性化をさせる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・夏まつりの開催 ・紅葉まつりの開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・夏まつり 700人 ・紅葉まつり 11,000人					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	イベント回数	回	目標値	2	2	2
				実績値	2	1	2
		算出根拠等	達成率(%)	100	50	100	
	活動指標	来場者数	人	目標値	12,000	12,000	12,000
				実績値	8,500	1,300	11,700
		算出根拠等	達成率(%)	71	11	98	
	成果指標	来場者数前年対比	%	目標値	110	141	923
				実績値	75	15	900
		算出根拠等	達成率(%)	68	11	98	
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
			目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	4,900	2,037	3,844	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			4,900	2,037	3,844	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,887	796	1,511	
	受益者		清見町住民(4月1日現在)	(B)	2,597	2,558	2,544

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・合併前からのイベントで市民に周知されており、市民ニーズは高く、県内外からの来場者も非常に多い。また、夏まつりは地域の若者が中心となって企画・運営しており、市民の交流の場としての重要な役割を果たしている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・実行委員会は地域内の各種団体と行政で構成されている。特例期間終了を見据え、今後は民間が主導となり、イベントの目的意識を持って継続する力が必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・紅葉まつりについては、市外からの来場者も多く、目標値を達成することができた。夏まつりは悪天候のため例年より来場者が少なかったが、イベントの内容も充実しており、市民の交流の場としての成果が上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・協賛金を増やすなどの努力により自己負担率も上がっている。またイベントの規模からもコストは適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・実行委員会は地域内の各種団体で構成され連携を図っており、市長の公約に結びついている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・実行委員会を構成する各種団体が、イベントに対する目的意識を持ち、民間が主導となる企画・運営を進め、住民への周知を図ることで更なる地域産業の活性化に繋げる必要がある。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	せせらぎ街道キャンペーン推進事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線
	種別				3231
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	<input type="radio"/> A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		<input type="radio"/> B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		<input type="radio"/> C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 観光振興費		<input type="radio"/> D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・自然景観を維持し、観光資源として活用することでせせらぎ街道を魅力あふれる街道として利用者の増を図り、地域を活性化させる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・せせらぎ街道を愛する会を通じて、せせらぎ街道を利用してもらうための観光キャンペーン・写真コンテストや自然景観維持のために、沿線の草刈りや植樹などを郡上市と連携して実施する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・街道沿線の清掃、植樹作業などの景観保全 ・せせらぎ街道への誘客のためのPR活動の実施					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	事業実施数(せせらぎ街道を愛する会事業実績)	回	目標値	11	11	11
				実績値	12	11	9
				算出根拠等	達成率(%)	109	100
	成果指標	せせらぎ街道入込客数(道の駅バスカル清見、ウッドフォーラム飛騨入込数)	人	目標値	180,000	180,000	180,000
				実績値	170,902	164,572	137,093
				算出根拠等	達成率(%)	95	91
	成果指標	入込客数前年比(道の駅バスカル清見、ウッドフォーラム飛騨入込数)	%	目標値	94	105	109
				実績値	102	96	84
				算出根拠等	達成率(%)	109	91
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	800	800	800	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			800	800	800	
	コスト指標		受益者1件当たり(円)	(A./B)	9	9	9
	受益者	全市民(4月1日現在)	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・四季折々の美しい景観が保たれた人気のドライブコースでもあり、市民ニーズは非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・市と民間がそれぞれ主体となって行うべきものの整理が必要。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・26年8月の豪雨災害により利用者は激減したが、今後も引き続き魅力あふれる街道となるように景観保全などの事業を行っていく必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・利用者拡大につながる、より効果的な事業の見直しを行う必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・22年度に、せせらぎ街道が「岐阜県のじまの原石」に認定されるなど、市長の公約でもある自然景観を観光資源として活用することにも結びつき効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・豪雨災害により利用者が減少しているため、今後も引き続き「せせらぎ街道」が、魅力あふれる街道となるよう道路管理者である県と連携を図り、道路改修や景観保全などの事業を行っていく必要がある。 ・事業の内容や方向性について検討する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/> O	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/> O	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3222
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	3 民生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 社会福祉費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 老人福祉費		D	その他事業	
根拠計画	高山市老人福祉計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,490 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開とまちづくりへの高齢者の参画の促進を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支えるうえで大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、単位クラブに対する活動助成 ・事務局人件費に対する助成					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	9,584	9,677	9,751
				算出根拠等	達成率(%)	96	97
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	143	139	138
				実績値	139	138	137
				算出根拠等	達成率(%)	97	99
	活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	40	40	40
				実績値	38	37	37
				算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口	達成率(%)	95
	活動指標			目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	活動指標			目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	420	420	420	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			150	149	149	
	一般財源			270	271	271	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	569	586	597	
	受益者		清見地区会員数(4月1日現在)	(B)	738	717	704

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入者は減少傾向にある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進することを目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	老人クラブ加入者は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

・市域全体として、新規加入者が少なく、連合長寿会会員加入率及び単位クラブの減が課題となっている。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。

(参考) H26事業評価結果 (二次評価)	26年度終了
-----------------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72199	市道未登記用地測量事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	道路橋りょう総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市道の未登記路線の整理により、所有権主張によるトラブルを解消し、適正な道路管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道の未登記箇所等の確定測量を行い登記関係書類を作成し、所有者からの寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・栗野保8号線の調査測量					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	対象路線数	本	目標値	8	7	5
		算出根拠等		実績値	1	2	1
	成果指標	使用承諾済筆数	筆	目標値	60	39	13
		算出根拠等		実績値	21	0	0
	成果指標	登記済筆数	筆	目標値	174	165	159
		算出根拠等		実績値	9	6	3
	成果指標			目標値			
		算出根拠等		実績値			
	成果指標			目標値			
		算出根拠等		実績値			
	成果指標			目標値			
		算出根拠等		実績値			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	3,642	5,806	7,709	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			3,642	5,806	7,709	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	39	63	84	
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・市道未登記箇所の所有者は限られているが市道の利用者を考えた場合、トラブル発生前に整理することで、ある程度ニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市道の未登記部分であり、市により分筆等を行い、所有権移転についても市への寄付をお願いしているため、市にて事業を行う必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・地権者の同意が得られないのと、路線が土地の混乱地であり、測量のみとなり、立会いまで至らない。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・土地家屋調査士協会に委託を行い事業をすすめている。今後は市道未登記箇所の再調査を行い、見直しを行う必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・未登記道路の改善につながり効果があつた。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・所有者不明や市外の所有者であるため境界立会いが困難である。 ・所有者からの寄付がもらえない。 ・公園と現地が整合できない。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94199	花づくり推進事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線
	種別				3222
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	○ A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 社会教育総務費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	対象者数	2,531 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域内の花壇管理を地域ぐるみで取り組み、地域全体の景観保全と地域の絆を深める。		
概要	事業の実施手法(手段)	・町内会単位で、花壇の植栽及び管理 ・主要幹線道路側花壇の植栽及び管理		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・町内会の地区花壇、ロード花壇の花苗の購入及び地域住民等による花壇管理作業の実施					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	花苗の配布	本	目標値	62,500	62,500	62,500
				実績値	61,390	57,175	55,515
				算出根拠等	達成率(%)	98	91
	活動指標	花壇面積	㎡	目標値	1,875	1,875	1,875
				実績値	1,875	2,426	2,418
				算出根拠等	達成率(%)	100	129
	成果指標	参加世帯数	戸	目標値	810	810	810
				実績値	821	833	848
				算出根拠等	達成率(%)	101	103
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
			実績値				
			算出根拠等	達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 2,678	2,659	2,488		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		2,678	2,659	2,488		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 1,031	1,039	978		
	受益者		(B) 清見町住民(4月1日現在)	2,597	2,558	2,544	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	一戸当たりの負担が大きい、役の負担が大きい、参加者の減少といった課題もあるが、高齢者等の生き甲斐や楽しみとしてある程度のニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	「清見町まちづくり協議会」が事業主体となる。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・地区花壇やロード花壇は、地域の行事として取り組まれ、維持管理がされており、目的とする成果が十分にあげられている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	「清見町まちづくり協議会」が事業主体となる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域の入り口なので続けていきたいという思い、喜んでもらえるので励みになっているという声など、花いっぱい運動の効果があがっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・花苗の購入、花壇の管理が地域の自主的な活動になるようにまちづくり協議会との協議、検討が必要である。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	生涯学習作品展及び芸能発表会助成事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線 3222
予算	会計	1 一般会計	特別 予算 の 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	6 文化振興費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	対象者数	2,531 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・地域に根ざした芸能文化の振興を図ることを目的に、発表の場の提供により活動意欲を高め、世代を交えた多くの住民交流と文化意識を向上させる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・清見地区社会教育推進委員会が実施する地域文化振興事業への助成 ・公民館活動団体や小中学生などの作品展展示会及び芸能発表会の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	生涯学習作品展、芸能発表会を開催する。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	作品 算出根拠等	作品	目標値	7	11	11
				実績値	11	-	11
				達成率(%)	157		100
	活動指標	団体 算出根拠等	団体	目標値	10	14	14
				実績値	14	13	10
				達成率(%)	140	93	71
	成果指標	人 算出根拠等	人	目標値	470	526	526
				実績値	526	-	526
				達成率(%)	112		100
	成果指標	人 算出根拠等	人	目標値	150	187	187
				実績値	181	146	143
				達成率(%)	121	78	76
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円) (A)		1,150	1,150	1,150		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		1,150	1,150	1,150		
	コスト指標		受益者1件当たり(円) (A/B)	443	450	452	
		受益者 清見町住民(4月1日現在) (B)	2,597	2,558	2,544		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	芸能活動発表会や文化作品展という文化的な機会があることで活動意欲や意識の向上につながり、市民のニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	「清見町まちづくり協議会」が事業主体となる。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・後継者不足や高齢化という課題はあるが、地域の文化活動として十分に成果があがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	「清見町まちづくり協議会」が事業主体となる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・多くの住民に文化的な機会を提供することで、出展者や出演者の活動意欲も高まり、ある程度の効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 10	→	100点換算 70 点

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	・文化作品展、芸能発表会が地域の自主的な活動になるようにまちづくり協議会との協議、検討が必要である。
---	--

(参考) H26事業評価結果 (二次評価)	26年度終了
-----------------------------	--------

今後の方向性(Action)	課題等に対する 27年度の対応状況	26年度終了
----------------	----------------------	--------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	ひねりの舞、伊勢神楽保存事業補助	担当課	清見支所 地域振興課	内線
	番社				3212
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	○ A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	7 文化財費		D	その他事業
根拠計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・無形民俗文化財の保存と伝承者の育成を行うことにより、伝統芸能の保存と伝承を推進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市指定無形文化財となっている「ひねりの舞」と「伊勢神楽」の保存と後継者育成を行っている2つの団体に対し、活動費を助成する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 指 標	H26の実績	・市指定無形文化財となっている「ひねりの舞」と「伊勢神楽」の保存と後継者育成が図られた。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動 指 標	補助金の交付額	円	目標値	90,000	90,000	90,000
				実績値	90,000	90,000	90,000
	成果 指 標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
				実績値	1	1	1
	成果 指 標	伝統芸能の奉納回数	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	2
	成果 指 標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	200
				実績値	14	14	14
	成果 指 標	保存会会員数(ひねりの舞)	世帯	目標値	14	14	14
				実績値	14	14	14
	成果 指 標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
				目標値	15	15	15
	成果 指 標	保存会会員数(伊勢神楽)	人	目標値	15	15	15
実績値				15	15	15	
成果 指 標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	100	
			目標値				
成果 指 標	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト 面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	90	90	90	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			90	90	90	
コスト 指 標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1	1	1	
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	総合計画「ゆたかさ」あるまちをめざしてのうちの、郷土の歴史や伝統文化を守り次世代に伝える活動として、伝統芸能を継承できる後継者の育成に結びつく
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市の無形文化財であるため、市が継続的に支援して行くことは必要である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	伊勢神楽については、毎年奉納され継続的な保存が図られている。ひねりの舞については、7年に1度奉納されるものであるが、少子化により子供の数が確保できず、H24に奉納する予定であったが今年度まで延長することとなった。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	補助金交付要綱に基づき、最小限のコストで事業が実施出来ている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	B	伊勢神楽については、毎年奉納され継続的な保存が図られている。ひねりの舞については、7年に1度奉納されるものであるが、少子化により子供の数が確保できず、H24に奉納する予定であったが今年度まで延長することとなった。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

ひねりの舞保存会は、上小島町内会の住民により構成されている。ひねりの舞には、子どもの芸能が必要であるが、上小島地区のみでは必要な子どもの確保が困難な状況であり、7年に1度の奉納については、小島地区あるいは清見地域全体で保存して行ける体制づくりが必要であると思われる。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	天然記念物環境保全事業		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3212
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたのか(意図)	・市指定天然記念物「小鳥峠ミズバショウを含む湿原植物群」の環境保全対策を地域参加型で推進する。		
概要	事業の実手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・獣害(イノシシ)対策をして電気柵を設置する。</li> <li>・オオハングソウの抜き取りを実施する。</li> <li>・生態調査研究</li> <li>・水路に堰を設置し、水位の低下を防ぐ。</li> <li>・排水路フン籠設置(湿原洗堀防止)</li> </ul>		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・獣害(イノシシ)対策をして電気柵を設置。</li> <li>・オオハングソウの刈取りを実施。</li> <li>・水路に堰を設置し、水位の低下を防ぐ。</li> </ul>					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	電気柵の延長	m	目標値	900	950	950
				実績値	950	950	950
		算出根拠等	達成率(%)	106	100	100	
	活動指標	電気柵の面積	ha	目標値	2	2	2
				実績値	2	2	2
		算出根拠等	達成率(%)	100	100	100	
	活動指標	湿原植物保護活動	回	目標値	2	2	2
				実績値	2	2	2
		算出根拠等	達成率(%)	100	100	100	
	活動指標	水路堰の設置	箇所	目標値	4	4	4
				実績値	4	4	4
		算出根拠等	達成率(%)	100	100	100	
	算出根拠等			目標値			
算出根拠等			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,162	1,605	1,614	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,162	1,605	1,614	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	13	17	18	
	受益者		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	周辺の環境変化に伴い、数年前まで減少傾向にあったため、保護保全に対するニーズは地域住民及び観光客からも多く寄せられている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	指定地域は市有地であり、市が保全していくことは不可欠である。清見地域住民は従前よりボランティアで清掃や草刈りを行っており、今後もお願ひしていかなければならない
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	A	電気柵、水路堰、オオハングソウの抜き取りと3年間実施してきているが、少しづつではあるが、ミズバショウ、ザゼンソウともに増えてきていることが目に見えて確認できるようになってきた
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	電気柵の設置管理のみ委託している。周辺環境整備については従前よりボランティアで行っており、最低限のコストで事業実施している
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	電気柵、水路堰、オオハングソウの抜き取りと3年間実施してきているが、少しづつではあるが、ミズバショウ、ザゼンソウともに増えてきていることが目に見えて確認できるようになってきた
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	散策道外を歩く観光客が多くみられることから、人的被害から保全する対策も必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定



平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3222
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	対象者数	2,531 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	スポーツ大会等を通じて健康増進を図ることと若者男女を問わず地域住民間の交流を深める。		
概要	事業の実施手法(手段)	清見地区社会教育推進委員会が実施する体育振興事業への助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	*新春マラソン、剣道、卓球、スキーのスポーツ大会を開催し、バレーボール、剣道の教室も開催。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	大会数	回	目標値	8	8	7
				実績値	6	7	5
		算出根拠等		達成率(%)	75	88	71
	成果指標	参加人数	人	目標値	800	800	800
				実績値	447	486	329
		算出根拠等		達成率(%)	56	61	41
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	380	380	380	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			380	380	380	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	146	149	149	
	受益者		(B)	2,597	2,558	2,544	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	年間を通じて様々なスポーツ大会などを開催しており、市民のニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	「清見町まちづくり協議会」が事業主体となる。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	参加人数の減少や実施種目の検討などの課題はあるが、スポーツ大会を通じて地域住民の交流の場となっており、目的とする成果がある程度あがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	大会参加料を徴収するなどコスト削減を図った。今後は「清見町まちづくり協議会」が事業主体となる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	多くの住民にスポーツ大会へ参加してもらう機会を提供することで、健康づくりへの意識、意欲が高まり、効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・スポーツ大会などが地域の自主的な活動になるようにまちづくり協議会との協議、検討が必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	21899	清見地域サクラソウ保護保全事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線
	番社				3212
予算	会計	1 一般会計	特別 予算 の 位置 づけ	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 総務管理費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	18 環境政策費		D	その他事業
根拠計画	高山市環境基本計画、高山市地域環境保全行動計画(アジェンダ21たかやま)地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	対象者数	2,531 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	個人レベルで自生種の保護が行われているサクラソウを将来にわたり保護・保全するとともに、保護活動団体の育成と支援を行う。		
概要	事業の実手法(手段)	①自生種遺伝子の調査と保護・保全活動の研究(筑波大学との連携) ②保護・保全活動の団体紹介や、研究・活動成果を公表する、市民を対象とした講演会の開催 ③保護団体等の育成及び支援		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	清見地域の生育調査(5月)、パネルとさくらそう展示会(5~6月)、DNA鑑定結果勉強会と株分け講習会(3月)を開催。					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	保護活動意識啓発活動	回	目標値		2	2
				実績値		1	0
	算出根拠等	観察会、講演会等の開催	達成率(%)		50	0	
			目標値		10	10	
	成果指標	品種(遺伝的に異なる個体)の保全	個	実績値		13	10
				達成率(%)		130	100
	算出根拠等	筑波大学のDNA鑑定による	目標値		10	10	
			実績値		8	8	
	成果指標	保護団体の会員数	人	達成率(%)		80	80
				目標値			
	算出根拠等	会員数の合計	実績値				
			達成率(%)				
	算出根拠等		目標値				
実績値							
算出根拠等		達成率(%)					
		目標値					
算出根拠等		実績値					
		達成率(%)					
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	213	138	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			213		138	
コスト指標	受益者1件当たり円(A/B)			83		54	
	受益者 清見町住民(4月1日現在)		(B)	2,558		2,544	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・将来に渡る自然の保護保全や自生種の保護観察などの観点からみると市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・市が事業主体ではなく地区社会教育推進委員会などになっている。今後は、「協働のまちづくり組織」への見直しが必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・パネルとさくらそうの展示会、勉強会、講習会の開催により目的とする成果がある程度あがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・展示会、勉強会、講習会費用を支出して事業効率化、コスト削減しているが、今後は「協働のまちづくり組織」の費用として見直す必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・展示会、勉強会、講習会を開催し、多くの住民に見てもらったり参加してもらったりする機会を提供することで効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・自然の保護保全や自生種の保護観察は地道な活動ではあるが、地域の自主的な活動になるようにまちづくり協議会との協議、検討が必要である。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	51399	体験施設改修事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	農業費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	農業振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	体験施設利用者	対象者数	12,000 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・体験施設(すのまたふるさと学校・栗野侯野外研修施設・里人学校・おっぱら自然体験センター・彦谷の里)の利用者ニーズに対応した適切な施設管理が行われている。		
概要	事業の実施手法(手段)	・体験施設(すのまたふるさと学校・栗野侯野外研修施設・里人学校・おっぱら自然体験センター・彦谷の里)の施設修繕を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・栗野侯野外研修施設トイレの洋式化 ・おっぱら自然体験センター外壁及び屋根修繕 ・彦谷の里外灯修繕					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	すのまたふるさと学校及び野外研修施設のトイレ洋式化	基	目標値		7	2
				実績値		7	2
	成果指標	体験施設の利用者数	人	目標値		11,000	12,000
				実績値		10,253	9,137
	コスト面	算出根拠等		達成率(%)		100	100
				達成率(%)		93	76
		算出根拠等		目標値			
				実績値			
算出根拠等			目標値				
			実績値				
算出根拠等			目標値				
			実績値				
算出根拠等			目標値				
			実績値				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	4,137	2,808	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				4,137	2,808	
コスト指標	一般財源						
	受益者1件当たり(円)		(A/B)		403	307	
受益者		体験施設利用者	(B)	10,253	9,137		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	環境教育や自然体験学習の活用などグリーンツーリズムに対する市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設は市の指定管理施設であり、資金的修繕については市が実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	C	・26年8月の豪雨災害により、予約のキャンセルが相次ぎ利用者は目標に達しなかった。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・市の基準に基づき、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域の自然環境や資源を活用した体験学習事業により、地域力が高められ地域活性化の向上に繋がっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・利用者ニーズに合わせた体験メニューを充実するなど、施設の利用率を高める必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	61199	商工施設整備事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	商工費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	地域商工振興事業費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者	対象者数	484,000 人
	どういう状態にしたのか(意図)	・商工施設の利用者ニーズに対応した適正な施設管理が行われている。		
概要	事業の実施手法(手段)	・老朽化する施設の修繕と器具等を更新する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	道の駅バスカル清見、ななもり清見の備品更新 ・ウッドフォーラム飛騨の備品更新					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	ウッドフォーラム飛騨公衆トイレの洋式化	基	目標値		4	0
				実績値		4	0
				算出根拠等	達成率(%)	100	
	活動指標	道の駅バスカル清見、ななもり清見、ウッドフォーラム飛騨厨房等備品の整備	台	目標値	6	6	
				実績値	5	13	
				算出根拠等	達成率(%)	83	217
	成果指標	ウッドフォーラム飛騨利用者数	人	目標値		37,000	37,000
				実績値		32,197	30,580
				算出根拠等	達成率(%)	87	83
	成果指標	道の駅バスカル清見利用者数	人	目標値		147,000	147,000
				実績値		132,375	106,513
				算出根拠等	達成率(%)	90	72
	成果指標	道の駅ななもり清見利用者数	人	目標値		300,000	300,000
実績値					251,506	229,996	
算出根拠等				達成率(%)	84	77	
算出根拠等			目標値				
算出根拠等			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	3,499	5,220	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			3,499		5,220	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)		8		14	
コスト指標	受益者	(B)		416,078		367,089	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の観光商工、交流の場として代表される施設であり、市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設は市の指定管理施設であり、資金的修繕については市が実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	C	・26年8月の豪雨災害の影響を受け、利用者は目標に達しなかった。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・市の基準に基づき、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域資源を活用した特産品の販売・PRや情報提供により、地域力が高められ地域活性化の向上に繋がっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・利用者ニーズに合わせた食事メニューや売店商品等を充実するなど、施設の利用率を高める必要がある。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	清見グリーンツーリズム推進事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線
	62199				3231
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 観光振興費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	グリーンツーリズム参加者	対象者数	12,000 人
	どのような状態にしたいのか(意図)	・既存の体験施設(おっぱら自然体験センター、すのまたふるさと学校、清見里人学校等)と連携したグリーンツーリズムの推進。		
概要	事業の実施手法(手段)	・ひだ清見グリーンツーリズム推進協議会を中心としたグリーンツーリズムPRの実施や生活環境保全「小鳥の郷」の活用についての現地調査の実施。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・二本木の森散策道を活用した市民モニターツアーの実施 ・グリーンツーリズムPRパンフレット(森歩きマップ)の作成					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	グリーンツーリズム啓発等活動回数	回	目標値	1	1	1
				実績値	2	2	2
	成果指標	算出根拠等	人	達成率(%)	200	200	200
				目標値	10,000	10,000	12,000
	成果指標	既存体験施設の利用者	人	実績値	11,019	10,906	10,027
				達成率(%)	110	109	84
	成果指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
	成果指標	算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
	成果指標	算出根拠等		目標値			
実績値							
成果指標	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
成果指標	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	76	328	309	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			76	328	309	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	7	30	31	
	受益者	施設利用者	(B)	11,019	10,906	10,027	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市内学校等からの農業等体験メニューの要請が増加しており、ニーズが高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・グリーンツーリズム事業は、市が誘客の目的として積極的に推進していることから市の参画は妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・貴重な資源を有する「小鳥の郷」の現地調査を行ったが、今後この施設をどのように利用していくかの検討が必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・市の基準に基づき、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域の自然環境を利用した体験学習や新たな資源を発掘し地域活性化の向上が図られた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・ひだ清見グリーンツーリズム推進協議会が中心となり、既存の体験施設との連携を強化し体験メニューの充実と「小鳥の郷」の活用によりグリーンツーリズムの推進を図る必要がある。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	ひだ清見お祭りキャンペーン事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線
種別	1	一般会計	位置付け	特別予算	3231
予算	会計	1	合併前から実施されているイベント・行事	A	
	款	6	一般予算の上乗せとして実施されている事業	B	
	項	2	終期を定めて実施する事業・単年度事業	C	
根拠計画	目	1	観光振興費	D	
	その他		その他事業		
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見・荘川住民	対象者数	3,706 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・荘川地域と連携して、せせらぎ街道・やまびこ街道・さくら街道の利用者増を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・荘川・清見観光客誘致推進協議会を核にキャンペーンの実施・誘客用パンフレットの印刷等を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	観光マップの増刷 誘客キャンペーンの実施					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	観光マップ配布枚数	枚	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	10,000	10,000	11,000
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	活動指標	誘客キャンペーン実施回数	回	目標値	3	3	3
				実績値	4	3	2
				算出根拠等	達成率(%)	133	100
	成果指標	清見町入込客数(道の駅バスカル清見・ウッドフォーラム飛騨・道の駅ななもり清見入込客数)	人	目標値	480,000	480,000	480,000
				実績値	429,564	416,078	367,089
				算出根拠等	達成率(%)	89	87
	成果指標	入込客数前年比(道の駅バスカル清見・ウッドフォーラム飛騨・道の駅ななもり清見入込客数)	%	目標値	92	112	115
				実績値	100	97	88
				算出根拠等	達成率(%)	109	87
	成果指標	荘川町観光客入込客数(1月~12月)	人	目標値	460,000	460,000	460,000
実績値				393,835	385,424	397,877	
算出根拠等				達成率(%)	86	84	86
算出根拠等			目標値				
算出根拠等			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,000	1,000	1,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,000	1,000	1,000	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	11	11	11	
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・春の桜・秋の紅葉等の誘客により、地域の活性化につながり、市民のニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・市と民間がそれぞれ主体となって行うべきものの整理が必要。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	26年8月の豪雨災害の影響を受け、目標には達しなかったが、今後も引き続き観光キャンペーンなどにより、地域の魅力をPRしていく必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・荘川地域、清見地域の関係機関と連携して協議会を設立し、事業を行うことで、市長の公約に結びついている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・両地域への誘客により地域活性化に繋げるためにも、事業の内容や方向性を検討する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62399	観光施設整備事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 予算 の 目	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	地域商工振興事業費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者	対象者数	34,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	観光施設の利用者ニーズに対応した適正な施設管理が行われている。		
概要	事業の実施手法(手段)	老朽化した施設の修繕と器具等を更新する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・大倉貸しロッジ屋根塗装 ・ラベンダー公園管理棟・東屋屋根塗装 ・大倉食事処の備品更新				
	指標名					
	活動指標	観光施設等の整備	件	目標値	2	
	算出根拠等		実績値	3		
	成果指標	観光施設(森林公園大倉、ラベンダー公園、パスカルキャンプ場)利用者数	人	目標値	34,000	
	算出根拠等		実績値	23,456		
				達成率(%)	69	
				目標値		
				実績値		
				達成率(%)		
補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
	歳出(千円)		(A)	0	0	2,277
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
一般財源					2,277	
コスト指標		受益者1件当たり(円)	(A/B)		97	
		受益者	(B)		23,456	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の観光交流の場として代表される施設であり、市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設は市の指定管理施設であり、資金的修繕については市が実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	C	26年8月の豪雨災害の影響を受け、目標には達しなかったが、今後も引き続き利用者ニーズに合わせた事業を展開し、施設の利用率を高めていく必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・市の基準に基づき、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域資源を活用した特産品の販売・PRや情報提供により、地域力が高められ地域活性化の向上に繋がっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・利用者ニーズに合わせた事業を展開し、施設の利用率を高める必要がある。
---------------------------------------	-------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	73199	河川整備対応事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	3	河川費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	河川維持費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	豪雨時に頻繁に被害が発生する落差工を整備し、市民が安全・安心に暮らせる地域づくりに繋げる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・普通河川(岩野川)落差工等の修繕工事。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・落差工整備 2箇所					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	整備箇所	件	目標値		1	2
				実績値		1	2
		算出根拠等		達成率(%)		100	100
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	3,308	6,545	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				3,308	6,545	
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	2,566	5,089		
	受益者	流域住民(三日町・牧ヶ洞)	(B)	1,289	1,286		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市民が安全・安心に暮らせる地域づくりにつながり、市民のニーズは極めて高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・普通河川は市が維持管理を行わなければならない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	B	・整備区間が1,420mと長く、数年に及ぶ改修となることから、早期完了を目指す必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・町内会からの要望事項でもあり、安全で安心して暮らせるまちづくりの観点からも効果が高い。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・改修箇所が多くあり、災害防止の観点から早期完了を目指す必要がある。
---------------------------------------	------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定



平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	74799	せせらぎ街道スポット整備事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	都市計画費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	快適環境整備費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・高山市の西の玄関口として、観光客の増加を図るとともに、道路利用者が安全・安心に利用できる沿道の景観保全を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・高木枝処理 ・沿道スポット施設の樹木の処理		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	高木枝処理 ・立ち枯れ木の処理					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	高木枝等の処理本数	本	目標値	50	30	30
				実績値	53	48	21
				算出根拠等	達成率(%)	106	160
	成果指標	せせらぎ街道利用者数	人	目標値	180,000	180,000	180,000
				実績値	194,537	183,549	153,882
				算出根拠等	達成率(%)	108	102
	成果指標	利用者数前年比	%	目標値	94	93	98
				実績値	102	95	84
				算出根拠等	達成率(%)	109	102
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	774	384	351	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			774	384	351	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	8	4	4	
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・せせらぎ街道は豊かな自然景観に恵まれ人気も高く、観光道路としてのニーズは非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・せせらぎ街道は生活道路であるとともに、当市の西の玄関口でもある観光道路として重要であるため、ボランティアによる作業や県と連携し景観を維持する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・26年8月の豪雨災害の影響を受け、利用者数は目標に達しなかったが、同街道の魅力である景観の維持・保全は地域の観光PRや活性化に繋がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・業務委託は各業者の見積りにより選定し、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・自然豊かなせせらぎ街道の景観保全に努め、観光資源として積極的に活用していることから市長の公約に結びついている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・せせらぎ街道は生活道路であるとともに観光道路として重要であるため、道路管理者である県と連携し景観を維持していく必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	81399	地域消防施設振興事業		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3212
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	8	消防費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	消防費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	消防施設費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	坂下町内会	対象者数	60人
	どういう状態にしたいのか(意図)	隣接地域班と合併したことにより、使用しなくなった消防団車庫の火の見櫓を処分する。		
概要	事業の実施手法(手段)	解体業者により解体する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	旧坂下班 1基					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	解体施設数	基	目標値			1
				実績値			1
	算出根拠等			達成率(%)			100
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
算出根拠等			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	222	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					222	
コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)			3,700	
指標	受益者	坂下町内会	(B)			60	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	使用目的がなくなったこと、老朽化により危険である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市有財産である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	使用目的もなく、解体することにより、住民の安全が守られる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	最小限のコストで実施した。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	特に政策としての効果はないが、危険で不要なものを撤去する必要があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	安全面から、撤去することが必要である。
---------------------------------------	---------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	文化財標柱設置事業		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3212
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	市民に対する文化財の周知を行い、文化財に対する理解と保護意識の高揚を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域内に数ある指定文化財の中から社会教育推進委員会文化財部と協議し、石製標柱による案内が必要な箇所を選定し設置する。 説明文等は、村史及び地域学識者から意見徴収を行い作成し、市学芸員の監修の元決定する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	春日神社のフジ社叢、二つ葉グリ、牧ヶ洞のイチイ、義民善十郎の墓、大原口留番所跡					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	石製標柱の設置数	箇所	目標値			5
				実績値			5
	算出根拠等			達成率(%)			100
	成果指標	石製標柱の設置率	%	目標値			60
				実績値			60
	算出根拠等			達成率(%)			100
				目標値			
				実績値			
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
遠隔地や所有者希望により、指定文化財の全てに設置することができない							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	897	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					897	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)				10	
	受益者	全市民(4月1日現在)	(B)			91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	木製標柱が朽ちて、折れており、新たな標柱が必要であった。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市指定である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	石製であるため、半永久的に残る。目標は達成できているが、指定のすべてではない。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	最低限のコストで実施した。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	標柱に説明文を記載することにより、後世に伝えるやすく、市長公約の実現に機能するものである。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 10	→	100点換算 70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	長く後世に、文化財の存在を伝える必要がある。
---------------------------------------	------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94999	地域生涯学習推進事業費 (生涯学習施設修繕事業)	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3222
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 生涯学習推進費		D	その他事業	
根拠計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・生涯学習施設の利用者ニーズに対応した適正な施設管理が行われている。		
概要	事業の実手法(手段)	・舗装修繕工事 ・鑑賞用椅子張替え修繕		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	舗装482㎡ 椅子63脚修繕					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	飛騨プラネタリウム利用者数	人	目標値	6,000	6,000	6,000
				実績値	5,856	6,736	7,669
	算出根拠等			達成率(%)	98	112	128
	成果指標	飛騨プラネタリウム利用団体数	団体	目標値	500	500	500
				実績値	442	447	626
	算出根拠等			達成率(%)	88	89	125
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				目標値			
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	3,523	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					3,523	
コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)			38	
指標	受益者	全市民(4月1日現在)	(B)			91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	修繕したことにより、いっそうニーズが高まった。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	指定管理であるが、市が所有する施設・設備の価値を高めるものである
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	ほそにより安全に事場していただけるようになった。 イス修繕により、利用者の満足度を上げることができた。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	競争入札によりコスト削減を図った。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	清見地域の財産である飛騨プラネタリウムの価値を上げ公約の実現に効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・利用者ニーズに合わせた事業を展開し、施設の利用率を高める必要がある。
---------------------------------------	-------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	51399	新規就農研修施設管理事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	農業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	農業振興費		O	D その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者	対象者数	4人
	どういった状態にしたいのか(意図)	新規就農希望者に研修施設を提供することで、就農者の増加を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	新規就農研修施設の維持管理。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	新規就農研修施設の維持管理					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	研修施設入居者数	人	目標値	4	4	4
		算出根拠等		実績値	2	2	2
	成果指標	入居者の遊休農地耕作面積	a	目標値	100	100	100
		算出根拠等		実績値	55	55	55
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	122	122	146	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				122		
	一般財源			122		146	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	61,000	61,000	73,000		
	受益者						
	施設利用者	(B)	2	2	2		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の耕作放棄地を減らす手段の一つとして、新規就農者による就農の取り組みについて市民ニーズが高まっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市は耕作放棄地の解消を推進しており、耕作放棄地解消につながる新規就農者の受け入れについて、市が参画することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・これまでの施設利用者は、退去後地域内で定住・就農している。現在、施設利用率が低下しているため、利用促進を図る必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・新規就農者が、施設を退去後地域内に定住し就農した実績もあり、市長の公約である農業の人材育成に結びついている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・施設利用人数が減っているため、地元の農業生産組織等と調整し、施設利用者を増やす取り組みが必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62399	大原地域活性化事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	観光施設費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者	対象者数	250 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・ホテルバスカル清見関連施設の試験的活用と周辺広場の修景。		
概要	事業の実施手法(手段)	・おつばら自然体験センターとの連携により、地域全体でグリーンツーリズムを推進する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	・ホテル関連施設の維持管理 ・体験事業の実施					
	指標名 単位 目標・実績 H24 H25 H26						
	活動指標	体験事業による施設利用者数	人	目標値	150	150	250
				実績値	188	154	180
	算出根拠等	達成率(%)	125	103	72		
	活動指標	おつばら自然体験センターの利用者数	人	目標値	2,000	3,000	3,500
				実績値	3,708	2,875	2,810
	算出根拠等	達成率(%)	185	96	80		
	成果指標	おつばら自然体験センターの利用者数前年比	%	目標値	127	81	122
				実績値	143	77	98
	算出根拠等	達成率(%)	113	95	80		
	算出根拠等	達成率(%)					
	算出根拠等	達成率(%)					
	補足事項						
	コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
歳出(千円)		(A) 1,099	994	1,226			
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源		1,099	994	1,226			
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 5,846	6,455	6,811		
	受益者	施設利用者	(B) 188	154	180		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域活性化を推進するうえで、ホテル関連施設は道の駅バスカル清見を取り囲む周辺景観と一体となった施設でニーズも高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設は市の所有であり、グリーンツーリズム事業についても市が積極的に推進していることから市の参画は妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・26年8月の豪雨災害の影響を受け、利用者は目標には達しなかった。 ・ホテル施設の将来的な活用について地元関係者等と調整が必要である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・施設を利用できる最小限のコストで概ね適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・遊休施設の有効活用のために市長の公約に結びつき、周辺の整備も行い自然体験事業の拡大に繋がった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・ホテル施設の活用について、地元関係者等との検討・調整が必要である。
---------------------------------------	------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	74799	幹線道路沿線環境整備事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	都市計画費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	快適環境整備費		O	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・清見地内幹線道路の沿道修景事業を実施し、来高者に高山市の玄関口として整備された景観を提供し、気持ち良くドライブを満喫してもらう。		
概要	事業の実施手法(手段)	・清見地内幹線道路の草刈り。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・街道沿線の草刈り L=31.4km (せせらぎ街道 16.5km、やまびこ街道 11.5km、卯の花街道 3.4km)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	草刈り延長	km	目標値	31	31	31
				実績値	31	31	31
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	清見町入込客数	人	目標値	480,000	480,000	480,000
				実績値	447,134	426,983	400,155
				算出根拠等	達成率(%)	93	89
	成果指標	入込客数前年比	%	目標値	96	107	113
				実績値	100	96	94
				算出根拠等	達成率(%)	104	90
	成果指標			目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	成果指標			目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,589	1,879	1,880	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,589	1,879	1,880	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	17	20	21	
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の重要な生活道路及び観光道路としてのニーズは非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・せせらぎ街道、やまびこ街道、卯の花街道は生活道路であるとともに、当市の西の玄関口でもある観光道路として重要であるため、ボランティアによる作業や県と連携し景観を維持する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・26年8月の豪雨災害の影響を受け、利用者数は目標に達しなかったが、同街道の魅力である景観の維持・保全是地域の観光PRや活性化に繋がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・シルバー人材センターへ委託し、効率化がなされている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・高山市の玄関口である幹線道路沿線の景観の維持・保全是、入込み客の増加にもつながり、地域活性化の観点からも効果が高い。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・3路線の幹線道路は生活道路であるとともに観光道路として重要であるため、道路管理者である県と連携し景観を維持していく必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域振興助成事業		担当課	清見支所 地域振興課	内線	3211
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		D	その他事業	
	根拠計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	対象者数	2,531 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取り組む地域振興事業を支援する。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域の住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくり事業への補助を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然記念物の剪定を行い地域資源の保護を図る。</li> <li>・災害にあった用水路を土砂上げを行い機能保全を図る。</li> <li>・地域資源である猪隊山の登山道周辺の植生をHPに掲載し、利用者の利便を高め地域の活性化を図る。</li> <li>・清見クラフト協会のパンフ、チラシの作成をし、協会のPRを図る。</li> </ul>					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	補助金交付件数	件	目標値	13	13	13
				実績値	8	10	15
		算出根拠等		達成率(%)	62	77	115
	成果指標	補助金受益者対象者の(べ人数)	人	目標値	2,597	2,558	2,544
				実績値	3,981	1,544	3,520
		算出根拠等		達成率(%)	153	60	138
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	2,495	3,571	3,499	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			2,495	3,571	3,499	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	961	1,396	1,375	
	受益者	清見町住民(4月1日現在)	(B)	2,597	2,558	2,544	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・人口の減少や高齢化等により地域活動が縮小している現状があり、地域からの財政的支援のニーズは高いが、高齢者の多いところでは簡易な基盤整備しかできない。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取り組む地域振興事業なので、市が実施する必要はないが、助成が必要である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・地域住民が自らの地域改善に取り組む活動は地域により差は見られるが、全体的に要望があり概ね地域住民に成果が及ぶ必要がある
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・原材料費等の原価部分について助成するが、人的労力は地域住民が行うことが条件のためコスト縮減の工夫がされ、地元業者への経済効果もある。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域の個性あるまちづくりと、市域との一体感を創るため、地域が取り組む活動に効果があった。 ・市長の公約の中にある地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算そのものである
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることが必要なかを記入)	・人口減少や高齢化等により地域活動が縮小している現状にあって財政支援のニーズは高く、計画的な地域づくりは必要であるが、高齢化になって住民自らが行うことについて出来る事業が限られてきている。特に基盤整備関係については、重機を取り扱う住民がいれば積極的にいえるが、そうでない地域の住民は人力で行うことが多くなり、人足に出る期間も長くなっていくのが難しい。
-------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定



平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域要望対応事業		担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		D	その他事業	
根拠計画	七次総合計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	対象者数	2,531 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・市有施設の軽微な修繕など地域住民の要望に即応し、安全・安心・快適に暮らせる地域づくりに繋げる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道、林道、農道、水路等の市有施設の軽微な修繕を支所長権限で実施。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・要望箇所の現地確認(5月~10月) ・市道、排水路等の市有施設の修繕(20件)																																																																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td rowspan="2">実施事業</td> <td>目標値</td> <td>14</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>7</td> <td>22</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td>50</td> <td>110</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	活動指標	実施事業	目標値	14	20	20	実績値	7	22	20	算出根拠等		達成率(%)	50	110	100	目標値				算出根拠等		実績値				達成率(%)				算出根拠等		目標値				実績値				算出根拠等		達成率(%)				目標値				算出根拠等		実績値				達成率(%)				算出根拠等		目標値				実績値				算出根拠等		達成率(%)				目標値				算出根拠等		実績値				達成率(%)			
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26																																																																																															
	活動指標	実施事業	目標値	14	20	20																																																																																															
			実績値	7	22	20																																																																																															
	算出根拠等		達成率(%)	50	110	100																																																																																															
			目標値																																																																																																		
	算出根拠等		実績値																																																																																																		
			達成率(%)																																																																																																		
	算出根拠等		目標値																																																																																																		
実績値																																																																																																					
算出根拠等		達成率(%)																																																																																																			
		目標値																																																																																																			
算出根拠等		実績値																																																																																																			
		達成率(%)																																																																																																			
算出根拠等		目標値																																																																																																			
		実績値																																																																																																			
算出根拠等		達成率(%)																																																																																																			
		目標値																																																																																																			
算出根拠等		実績値																																																																																																			
		達成率(%)																																																																																																			
補足事項																																																																																																					
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額																																																																																																
	歳出(千円)		(A) 4,088	8,036	11,924																																																																																																
	受益者負担(使用料・負担金等)																																																																																																				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)																																																																																																				
	一般財源		4,088	8,036	11,924																																																																																																
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 1,574	3,142	4,687																																																																																																
	受益者	清見町住民(4月1日現在)	(B) 2,597	2,558	2,544																																																																																																

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域要望に迅速に対応できることから、住民ニーズは非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の適正な管理に繋がることから、市が実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・地域住民の要望に対して、一定の地域に偏らないよう精査し、迅速に対応できていることから、十分に達成している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・市の設計基準に基づいて設計を行っている。 ・年々要望件数が多くなってきていることから、地域自らが国・県補助(農地・水)を活用して行う事業と市で実施する事業を地域内で精査することが必要。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・当該事業の実施は、第七次総合計画等で示されている市道、農道、水路等市有施設の適正な管理及び整備の推進に繋がることから効果が大きい。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・予算内での執行の効率性を高めるためにも、国・県の補助金(農地・水等)を活用し、地域自らが行う事業と市が実施する事業を精査する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	土地借上料	担当課	清見支所	内線
種別					3231
予算	会計	1 総務費、農林水産、商工費	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	総務管理費、林業費、商工費、観光費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	財産管理費、林業振興費、観光施設費、商工振興費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	企画費		D	その他事業
根拠計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	土地所有者	対象者数	29人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・市有施設用地の借地について、市基準値で契約を締結する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市の基準単価を上回る土地賃貸借。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・市の基準単価に基づく設定への移行を目指し、所有者との交渉を行った。 ・公共施設用地の土地賃貸契約。29件					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	借上契約件数	件	目標値	31	31	29
				実績値	31	29	29
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値	993,853	993,853	993,591
				実績値	993,853	993,591	993,591
	成果面	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
				実績値			
	成果面	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
				実績値			
	成果面	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
				実績値			
	成果面	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
				実績値			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 5,885	5,018	4,180		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		5,885	5,018	4,180		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 189,839	173,034	144,138		
	受益者	土地所有者	(B) 31	29	29		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・公共施設として市民や観光客などに利用されており、市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の施設用地であることから、市が実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・借入れている施設用地は、観光・商工事業などの誘客増加と地域活性化に繋がる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・市の基準単価に近づきよう地権者と交渉した。 ・一部契約案件を除いて、25年度より3年間で段階的に調整し、平成27年度に市の基準となる契約更新を行う。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・借上げしている土地は生活環境保全林や公園施設であり住民の憩いの場や観光資源として活用しているもので市長の公約に結びつく。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・一部の契約案件について、市の基準単価に近づけるよう引き続き交渉が必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定